

上郡町民の交通手段の利用に関する実態調査

調 査 報 告 書

平成 21 年 11 月

○アンケート調査の概要

調査日：平成21年7月15日（水）～8月20日（木）

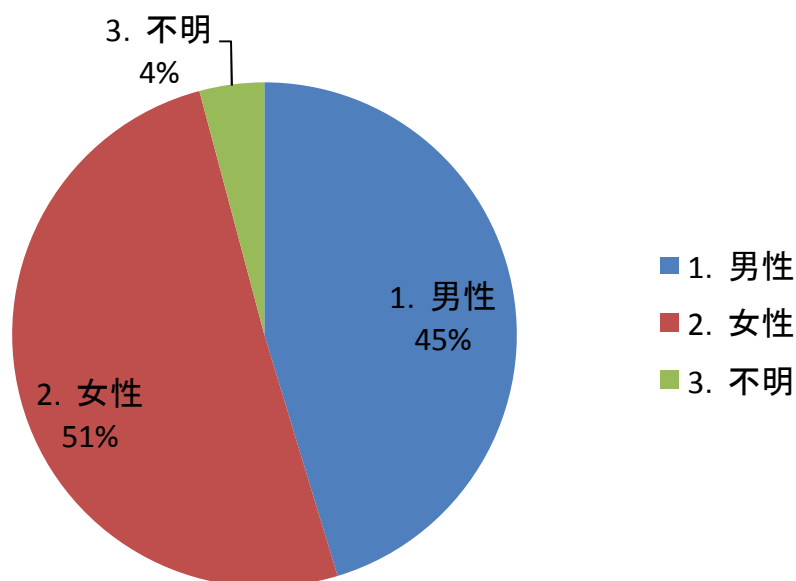
配布数：11,546票（1世帯につき最大2枚配布）

回収数：6,132票（回収率：53.1%）

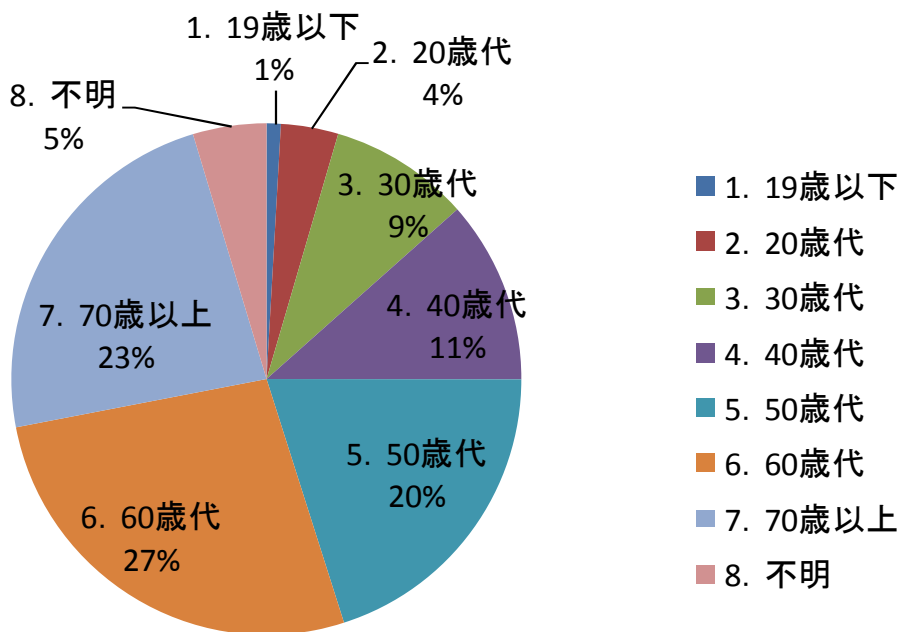
1. 回答者の属性（n=6132）

- ・性別は男性，女性ともに，上郡町の構成比（男性：47.6%，女性52.4%，2005年現在）に概ね合致している。
- ・年齢では，60歳以上から上郡町の構成比よりも多くの回答を得ている。
- ・職業においては，無職の方から多くの回答を得ている。
- ・免許を保有していない町民は2割程度であり，ほとんどの町民が免許を持っている。しかし，高齢者（ここでは60歳以上の町民，以下も同様）については保有していない割合が町民全体と比べて高く，約3割が保有していない。
- ・送迎を気軽に依頼できる人がいない町民は2割強である。高齢者ではその割合がより高く，地区では梨ヶ原，岩木で高くなっている。

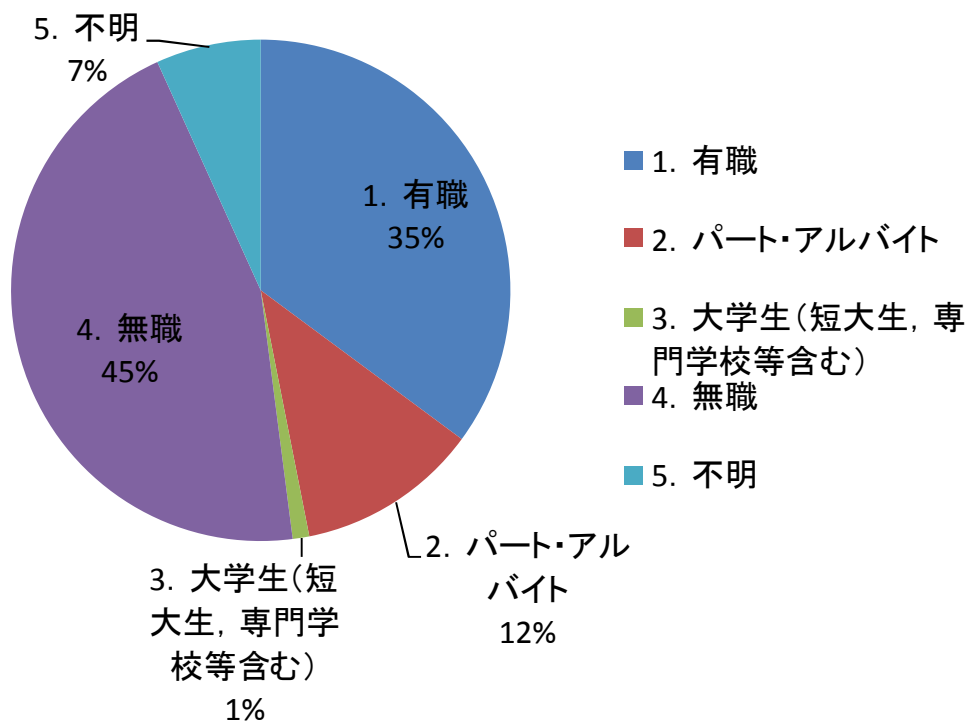
【性別】



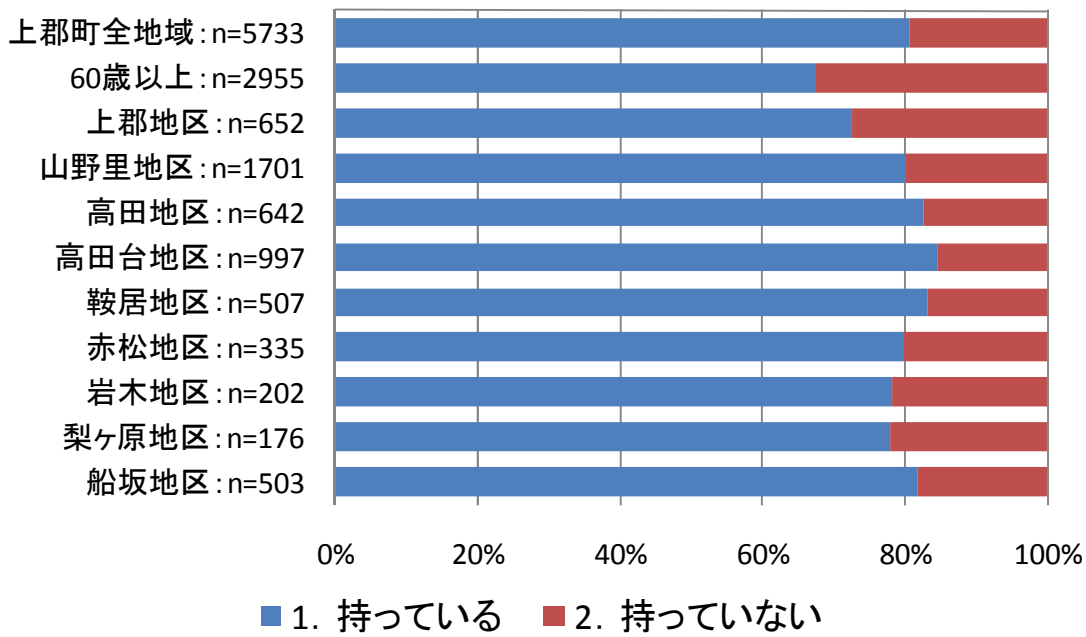
【年齢】



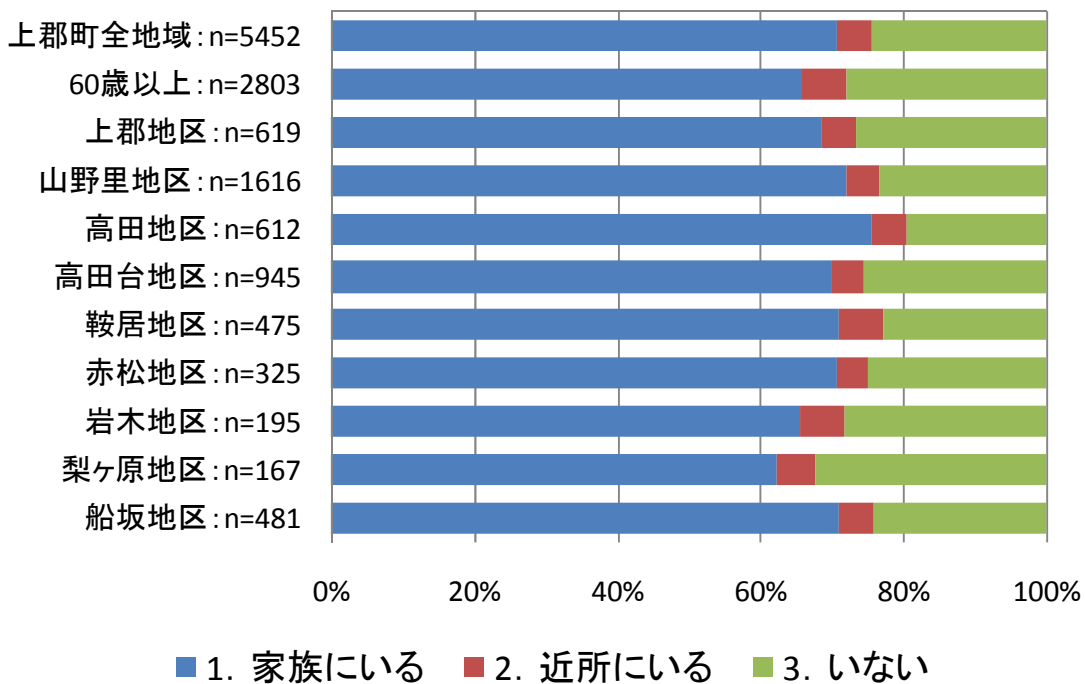
【職業】



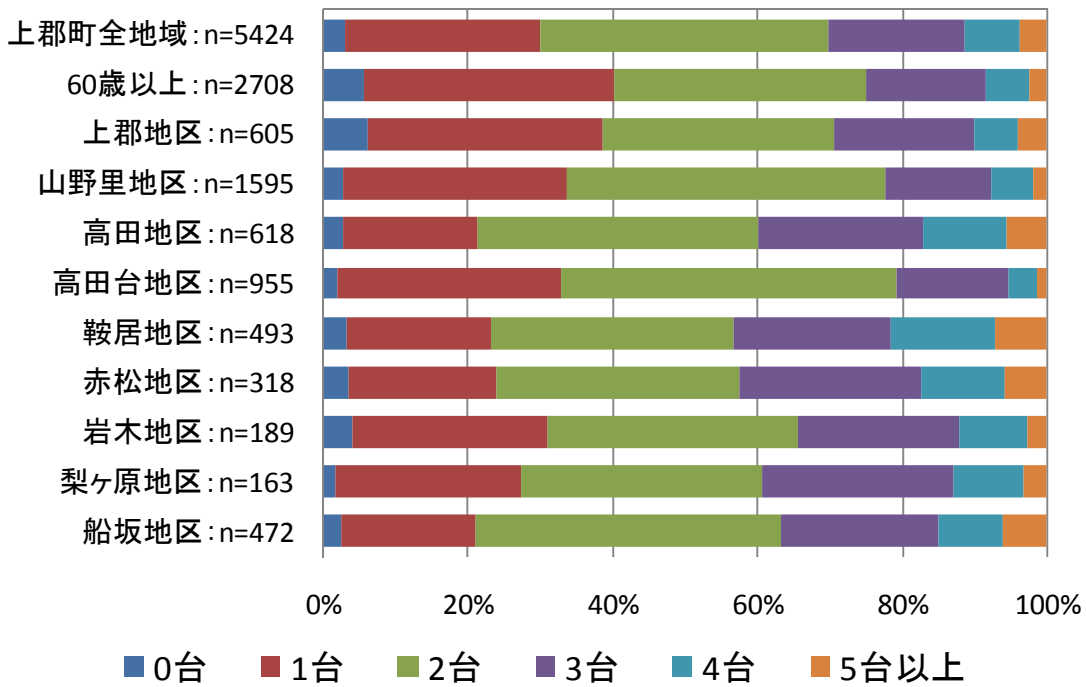
【免許の保有】



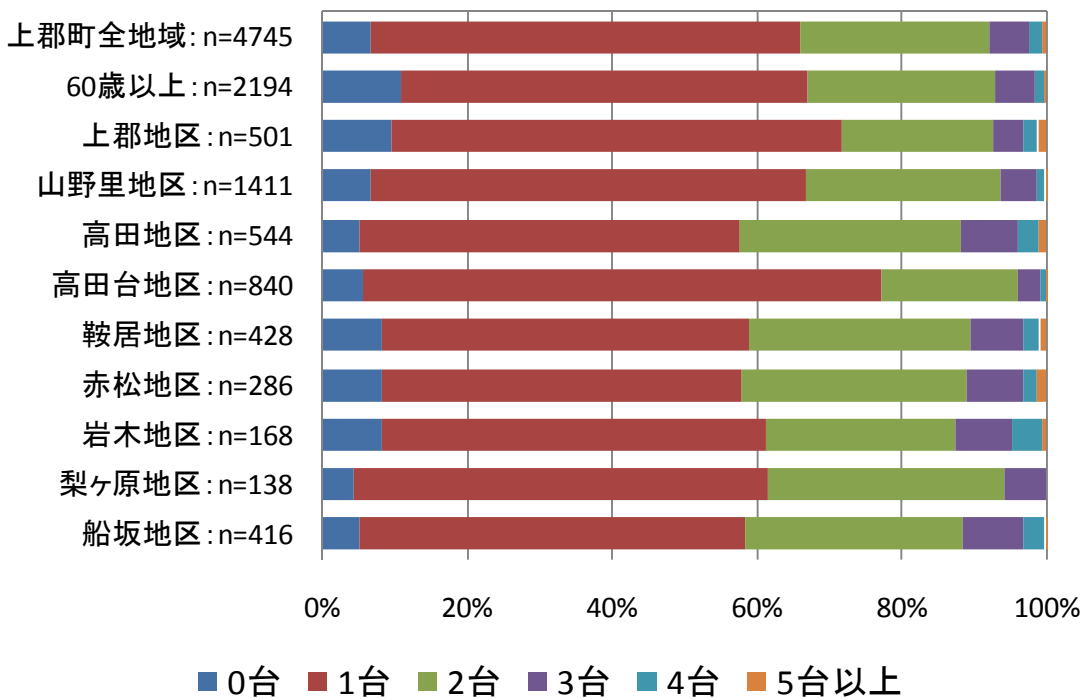
【送迎者の有無】



【車の所有台数】

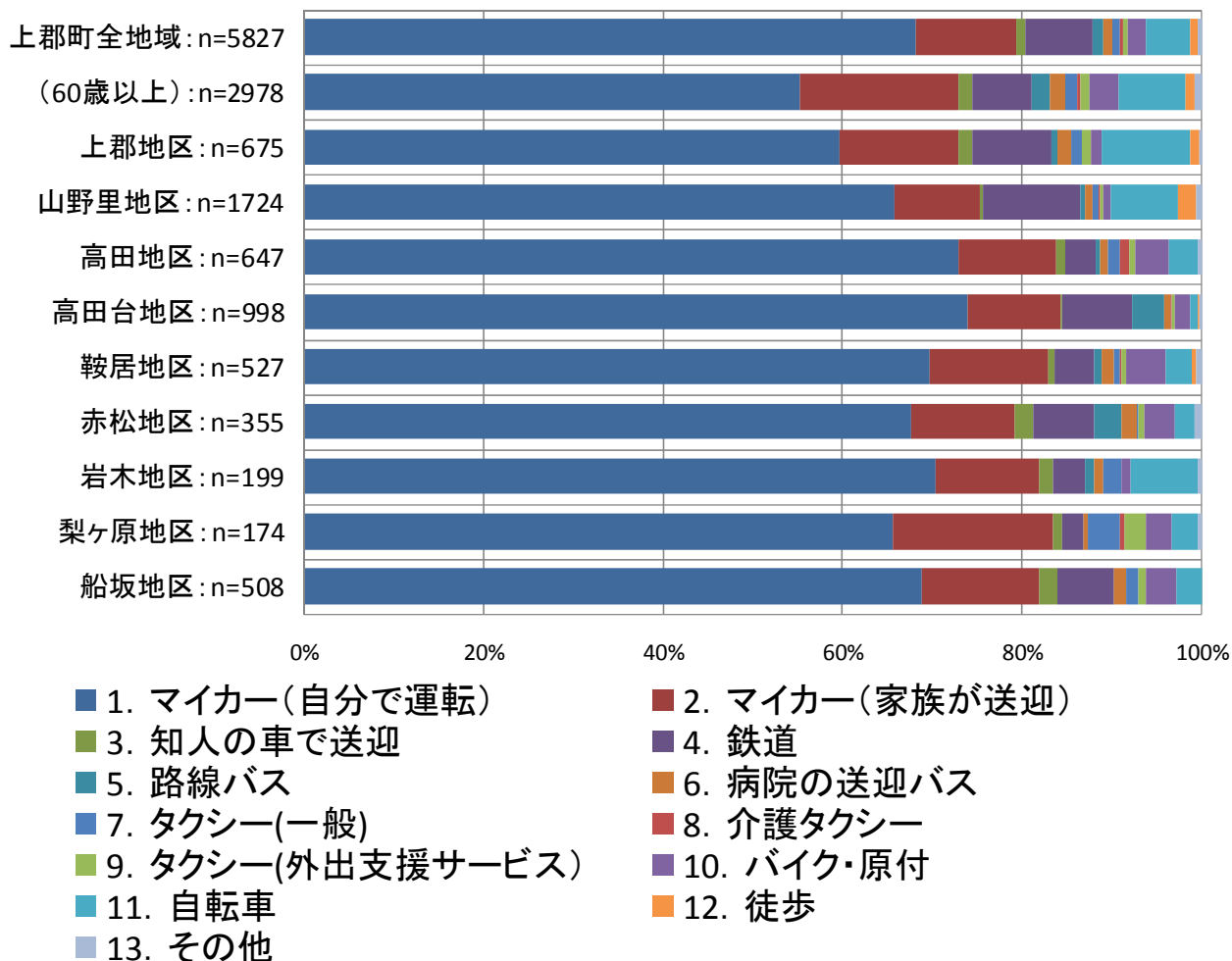


【自由に使える車の所有台数】



2. 普段利用している交通手段（問5）

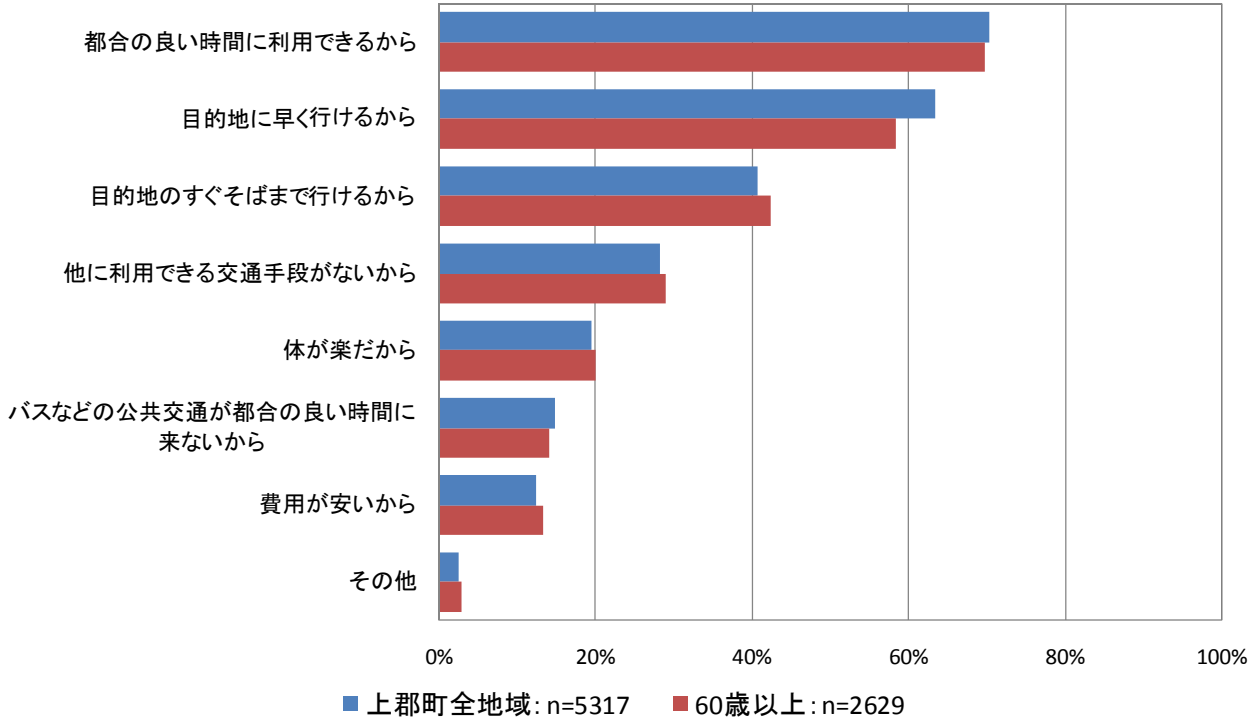
・マイカー（自分で運転）を利用している割合が最も高く、町民全体で7割程度である。高齢者に限定すれば、その割合は5～6割であり、家族の送迎に頼っている人が2割近くある。地区では、梨ヶ原で家族の送迎が多くみられる。鉄道の利用は1割弱、バスとタクシーはそれらをあわせて5%ほどであり、町民全体と高齢者にこれらの割合に大きな差はない。



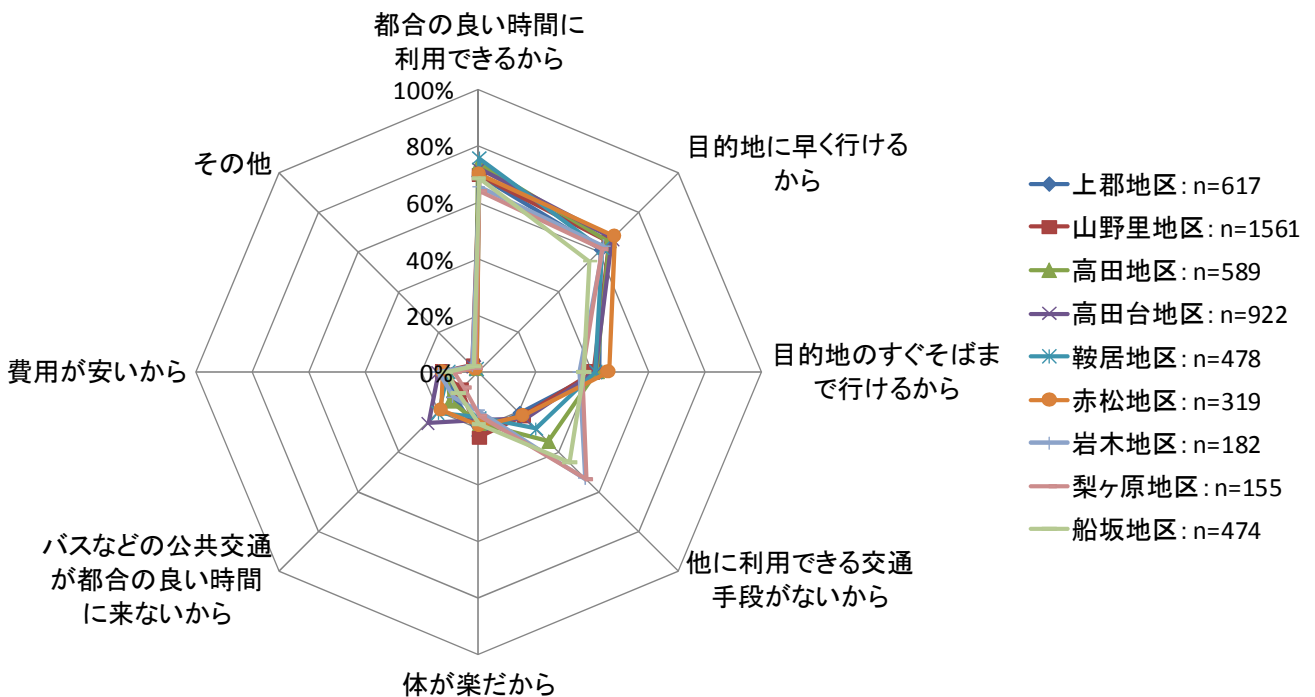
3. 交通手段の選択理由（問6）

・「都合の良い時間に利用できる」、「目的地に早く行ける」を理由にあげた人が町民全体の6割以上であり、高齢者についてもほぼ同様である。一方で、岩木、梨ヶ原、船坂では、「他に利用できる交通手段がない」という消極的な理由をあげた人が4割以上であり、町民全体と比べて高い。

【上郡町全地域・60歳以上】



【地区別】



4. 1日当たりの外出時間の分布（問2-1, 3-2, 4-2）

- ・通勤通学については、7時台に出発し、18時台に帰宅する割合が最も多く、高齢者についても同様である。
- ・買い物については、全体では10時台と17時台にピークがあり、10時台の方が人出は多い。買い物の時間は1時間ほどである。高齢者では、10時台と16時台にピークがあり、午後は早めの時間帯に買い物を済ませる傾向がある。また、町民全体と比べて、午前中の人出が多い傾向にある。
- ・通院については、9時台に出発し、11時台に帰宅する割合が最も多く、高齢者についても同様である。15時台にも小さなピークがあるが、午前中に比べて小さい。

【出かける時間】

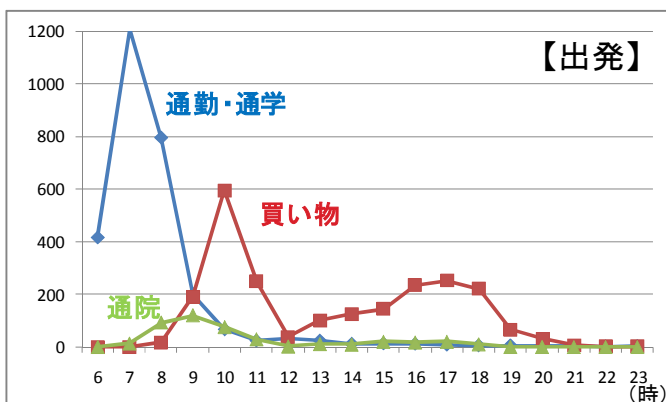
(人/日)

発時間帯	全交通手段		
	通勤・通学	買い物	通院
0～5時台	82	0	0
6時台	415	0	0
7時台	1,206	0	13
8時台	794	16	92
9時台	200	190	119
10時台	65	594	75
11時台	23	248	29
12時台	31	37	2
13時台	23	101	11
14時台	11	124	9
15時台	12	143	20
16時台	11	234	17
17時台	7	252	20
18時台	4	220	10
19時台	4	66	0
20時台	2	31	0
21時台	2	7	0
22時台	1	1	0
23時台	2	1	0
合計	2,895	2,263	415

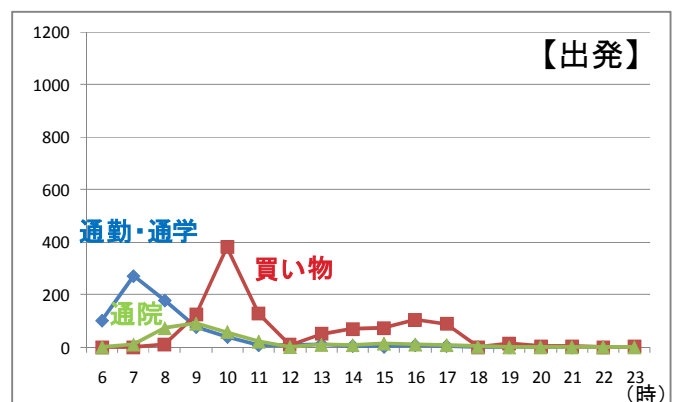
(人/日)

発時間帯	全交通手段（60歳以上）		
	通勤・通学	買い物	通院
0～5時台	20	0	0
6時台	101	0	0
7時台	271	0	10
8時台	178	9	72
9時台	77	122	89
10時台	39	380	57
11時台	8	126	21
12時台	6	8	1
13時台	12	49	9
14時台	5	68	8
15時台	2	73	14
16時台	8	104	10
17時台	5	88	8
18時台	1	0	2
19時台	0	13	0
20時台	1	3	0
21時台	0	2	0
22時台	0	0	0
23時台	1	1	0
合計	715	1,103	302

(全町民 単位：人/日)



(60歳以上 単位：人/日)



【帰宅時間】

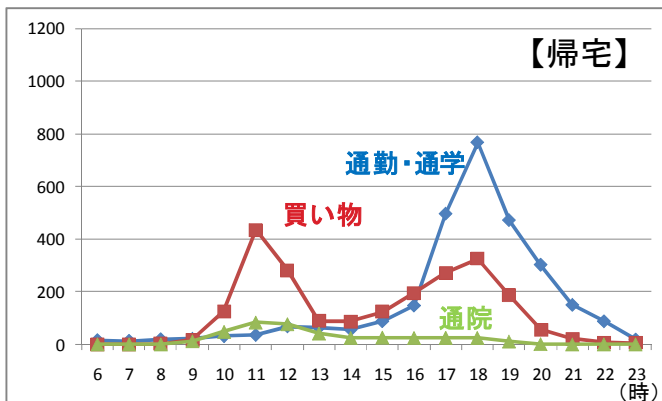
(人/日)

発時間帯	全交通手段		
	通勤・通学	買物	通院
0～5時台	33	0	0
6時台	15	0	0
7時台	12	0	0
8時台	18	1	0
9時台	20	17	12
10時台	30	125	48
11時台	34	435	83
12時台	67	281	77
13時台	63	88	41
14時台	55	87	24
15時台	87	122	26
16時台	146	194	24
17時台	495	270	25
18時台	766	325	25
19時台	471	186	11
20時台	301	55	1
21時台	149	20	0
22時台	86	7	0
23時台	17	4	0
合計	2,865	2,217	397

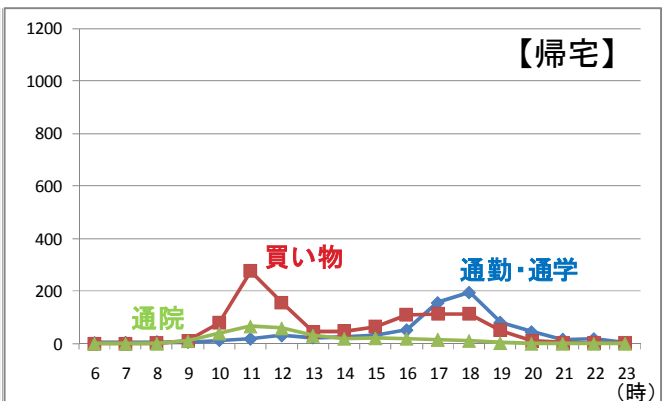
(人/日)

発時間帯	全交通手段(60歳以上)		
	通勤・通学	買物	通院
0～5時台	10	0	0
6時台	2	0	0
7時台	3	0	0
8時台	5	1	0
9時台	5	9	9
10時台	12	78	39
11時台	17	276	66
12時台	30	155	58
13時台	22	44	30
14時台	23	46	19
15時台	30	63	20
16時台	51	109	19
17時台	155	113	15
18時台	195	112	11
19時台	80	50	2
20時台	44	9	0
21時台	15	2	0
22時台	17	1	0
23時台	3	2	0
合計	709	1,071	286

(全町民 単位：人/日)

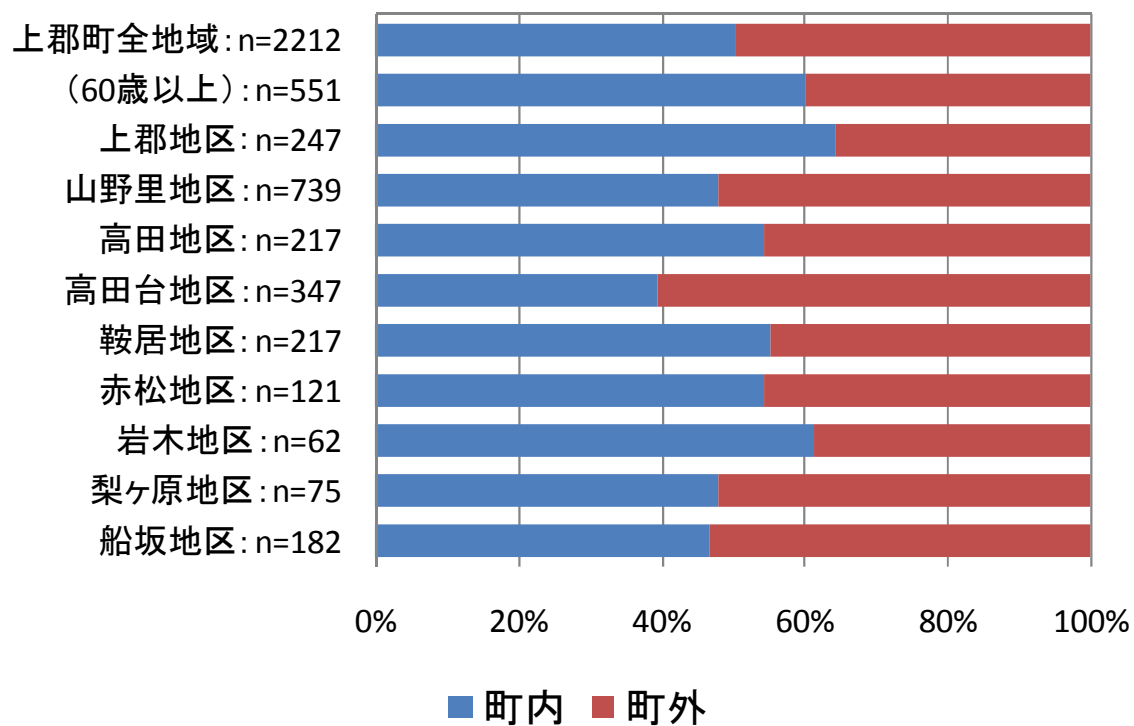


(60歳以上 単位：人/日)



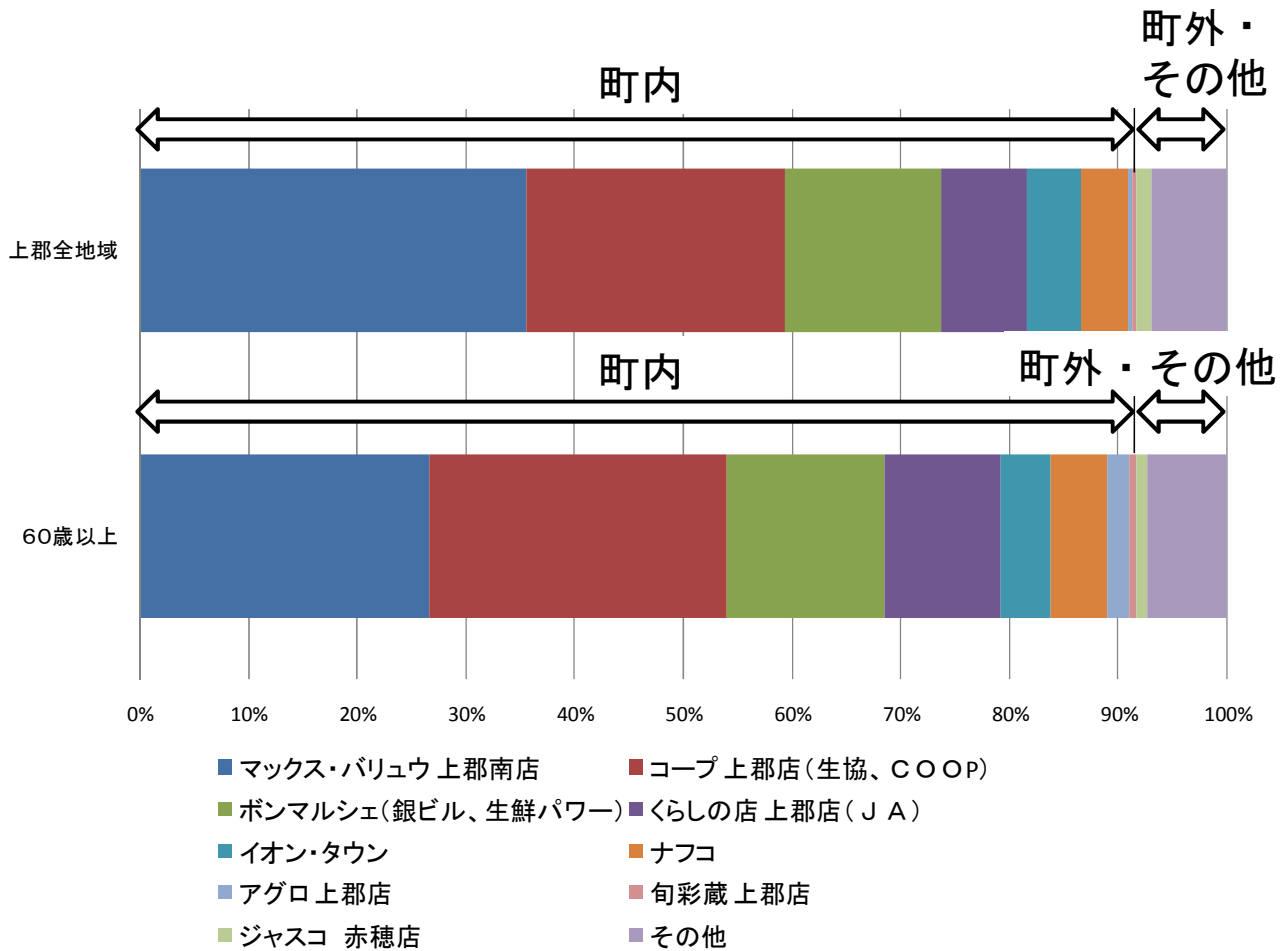
5. 通勤・通学先（問1-1）

・上郡町内と町外の割合が町民全体ではほぼ半々となっている。上郡と岩木では町内、山野里と高田台、梨ヶ原、船坂では町外の割合が高くなっている。



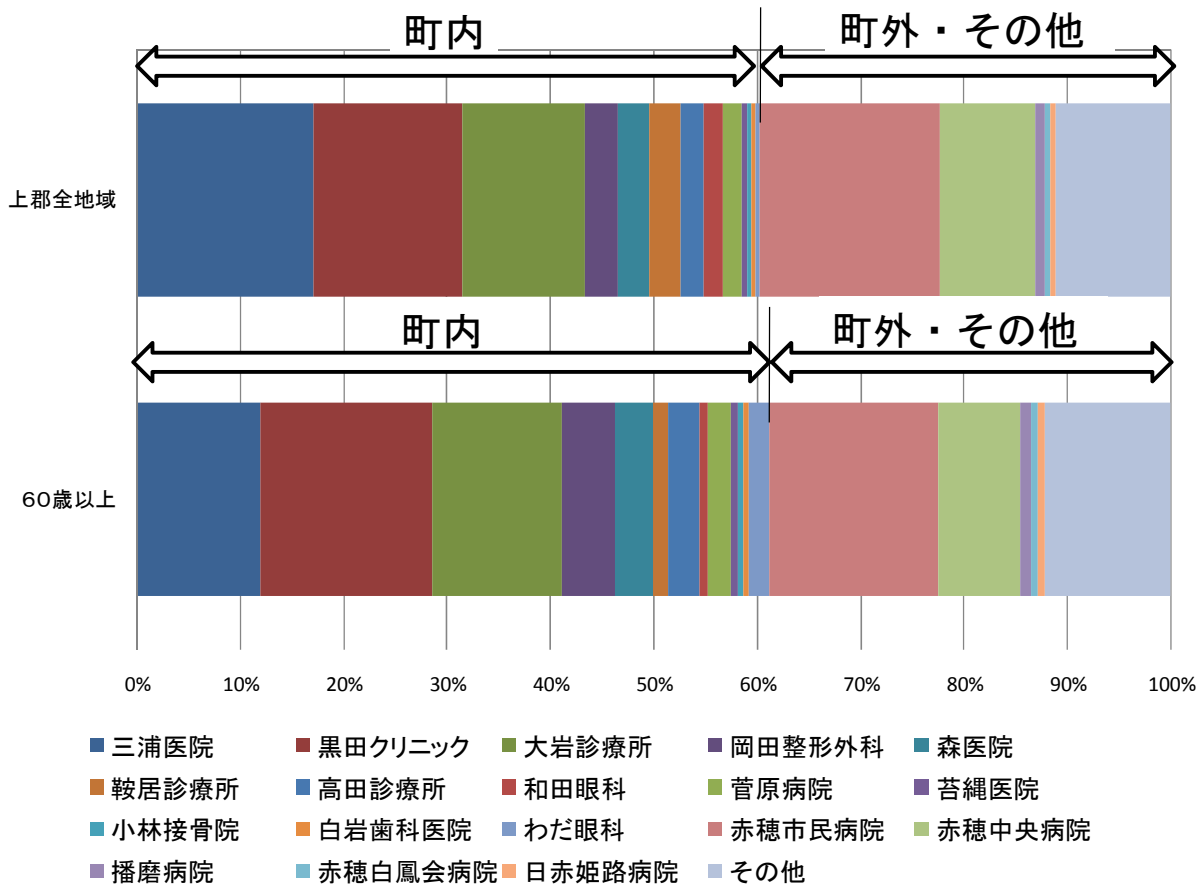
6. 買物先（問1-2）

・上郡町内がほとんどであり，町民全体，高齢者ともに9割以上となっている．町民全体と比べて高齢者は，コープ上郡店（COOP）とくらしの店上郡店（JA）の割合が高い．



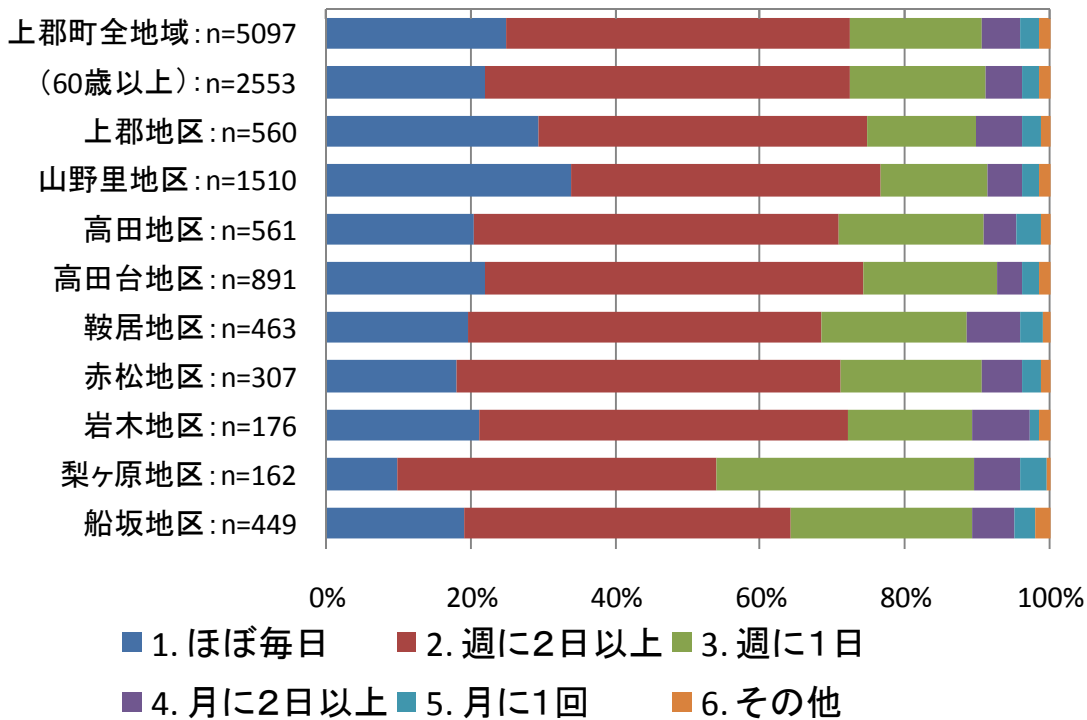
7. 通院先（問1-3）

・上郡町内が6割程度であり、高齢者もほぼ同様である。通院先は、町内外の行き先の中で赤穂市民病院が最も多く、2割弱を占めている。



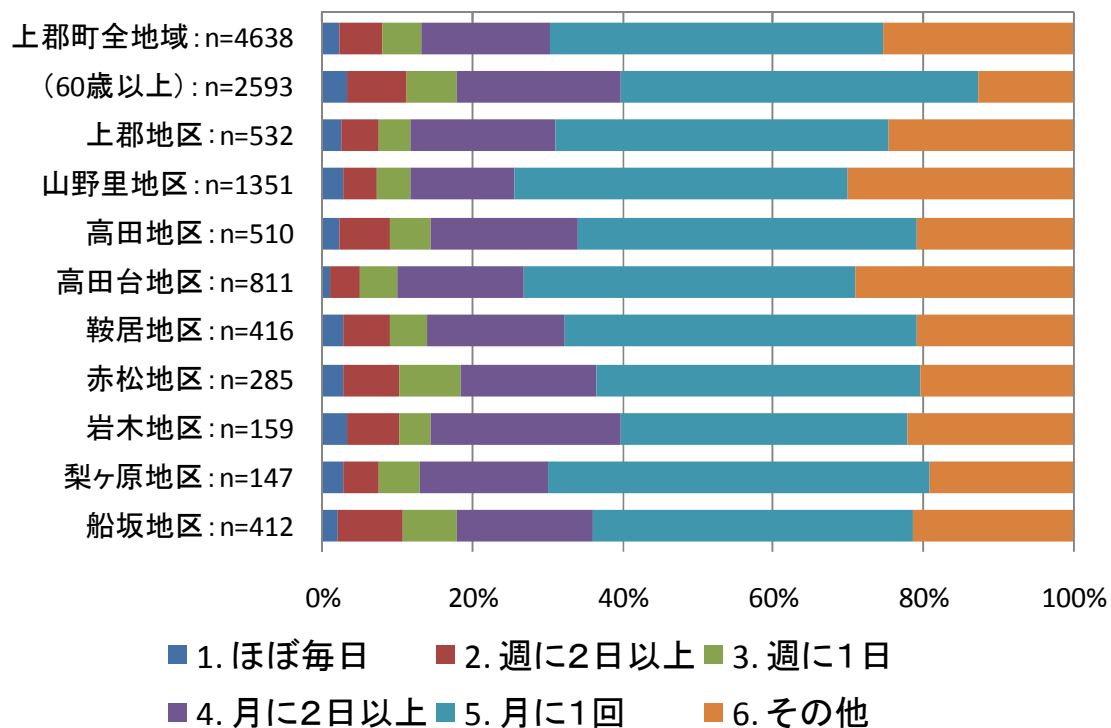
8. 買い物の頻度（問3-1）

・町民全体では、「週に2日以上」、「ほぼ毎日」の順に多く、これらで7割以上を占める。その傾向は、高齢者も同様である。地区では、梨ヶ原、鞍居、赤松で頻度が低く、上郡と山野里で高くなっており、買い物先までの移動距離・時間が影響を及ぼしていると考えられる。



9. 通院の頻度（問4-1）

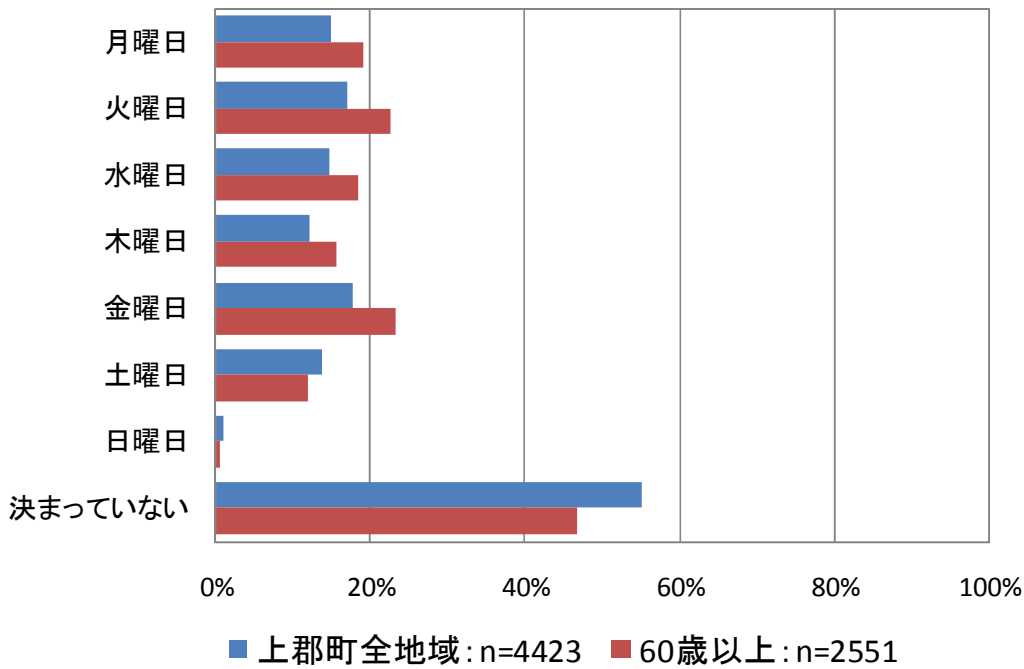
・町民全体では、「月に1日」が最も多く、これらで4割程度を占める。高齢者では全体と比べて頻度は高く、「月に1日」が最も多いものの「ほぼ毎日」～「月に2日以上」の割合がほぼ4割となっている。地区では、岩木、赤松、船坂で頻度が高く、高田台と山野里で低くなっている。



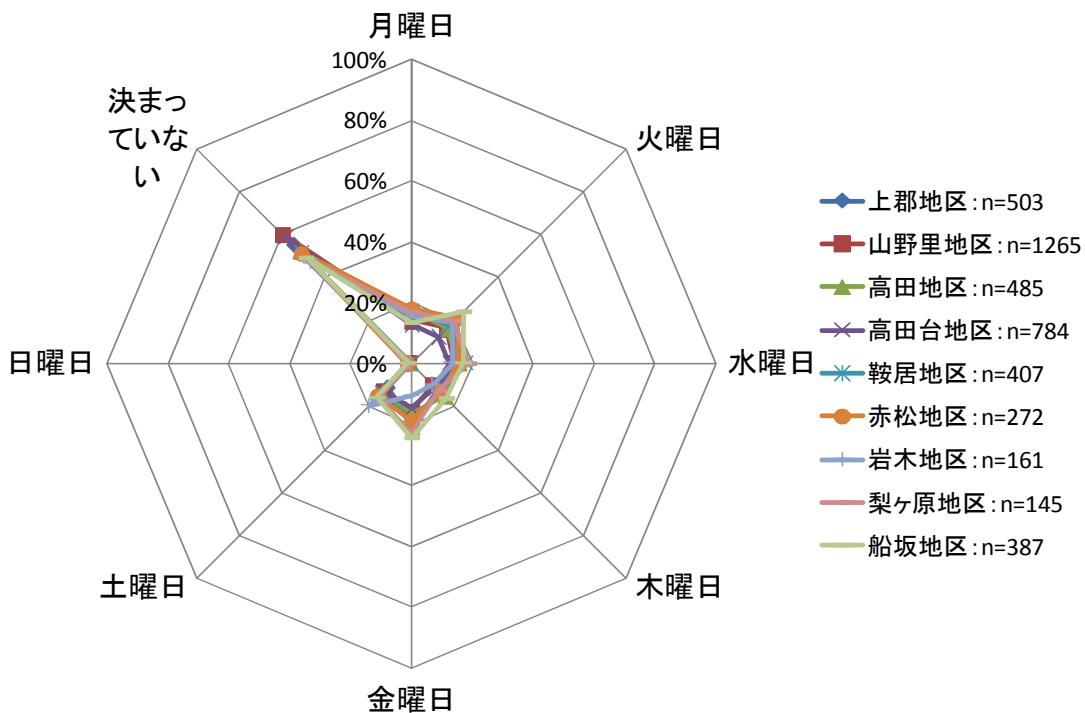
10. 通院の曜日（問4-3）

・通院の曜日を決めている割合は町民全体では4割強であるが、高齢者では5割強となっている。通院の曜日としては、火曜日と金曜日が最も高く、町民全体および高齢者ともにそれぞれで2割ほどとなっている。

【上郡町全地域・60歳以上】

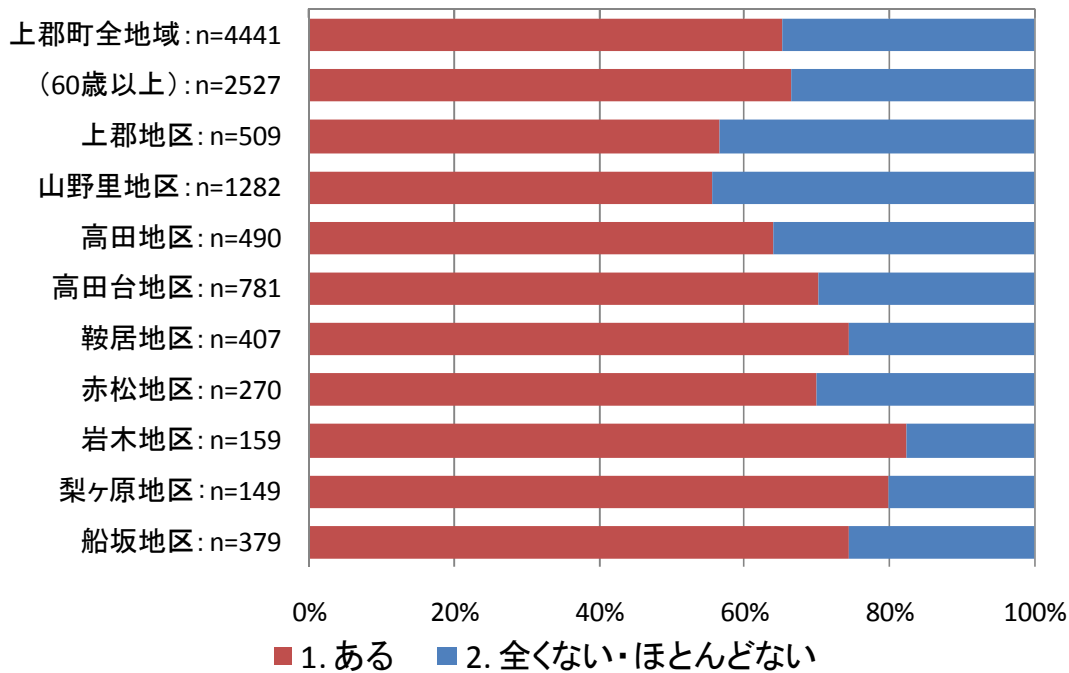


【地区別】



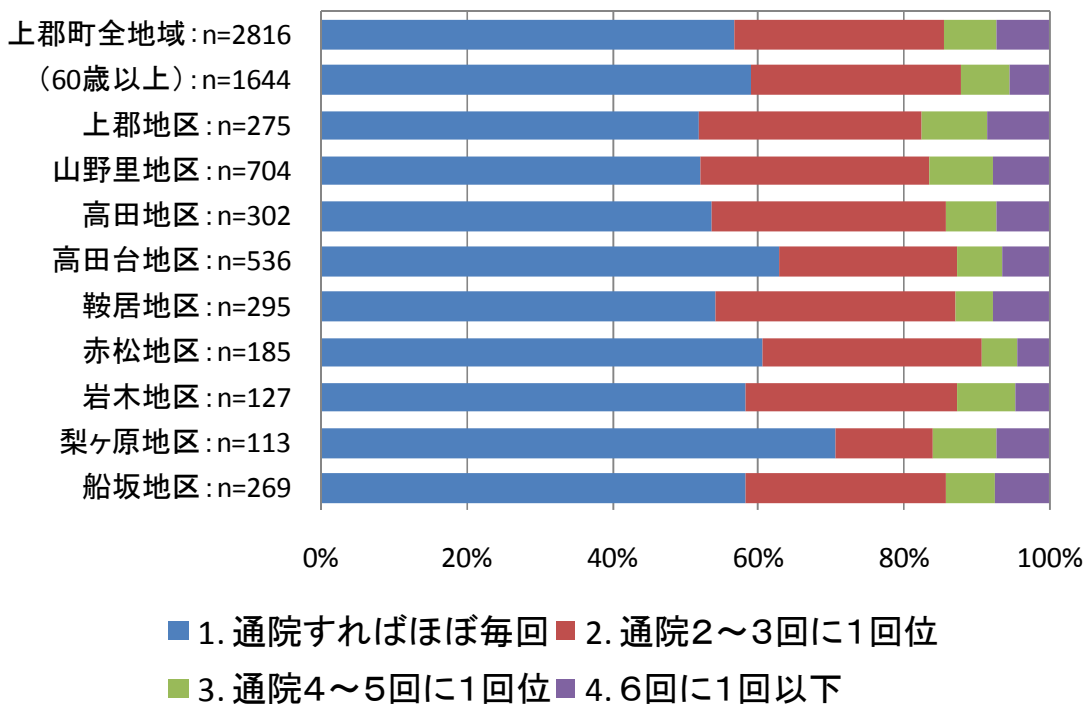
1 1. 「通院のついでに買い物」の有無（問4-4）

・全体で6割以上が「ある」と回答しており、高齢者も同様の割合である。地区では、鞍居、岩木、梨ヶ原、船坂においてその割合が高く、上郡と山野里では低い。



1 2. 「通院のついでに買い物」の頻度（問4-5）

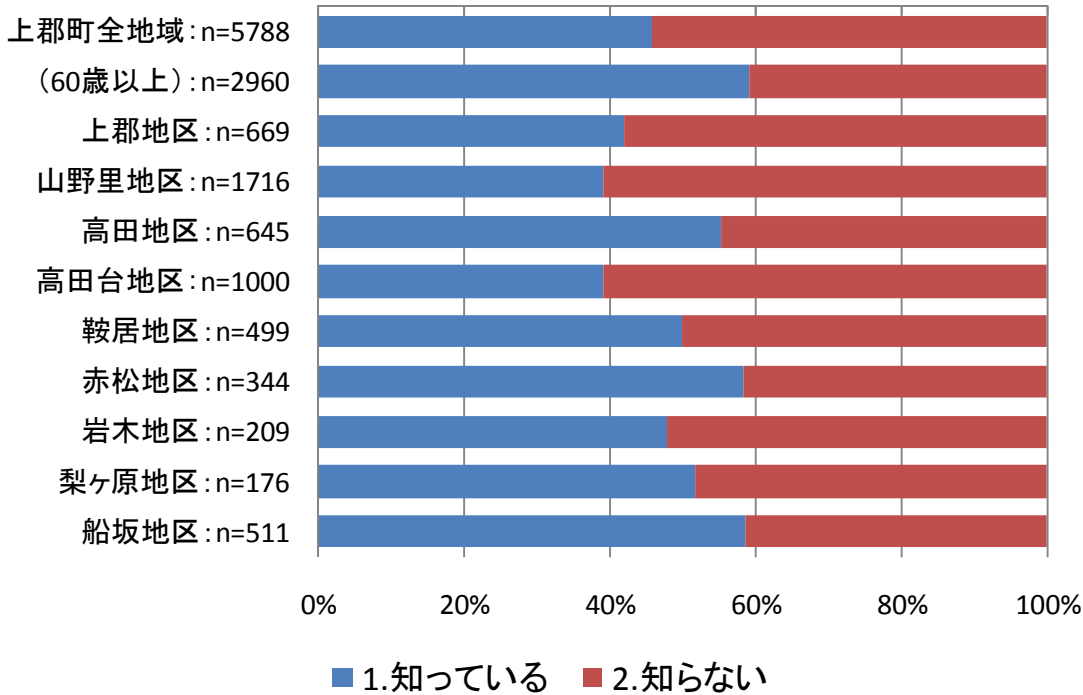
・「通院すればほぼ毎日」が6割程度、「通院2～3回に1回程度」が2割強であり、通院のついでに買い物をする頻度は高い。高齢者も同様の傾向である。地区では梨ヶ原において「通院すればほぼ毎日」の割合が高い。



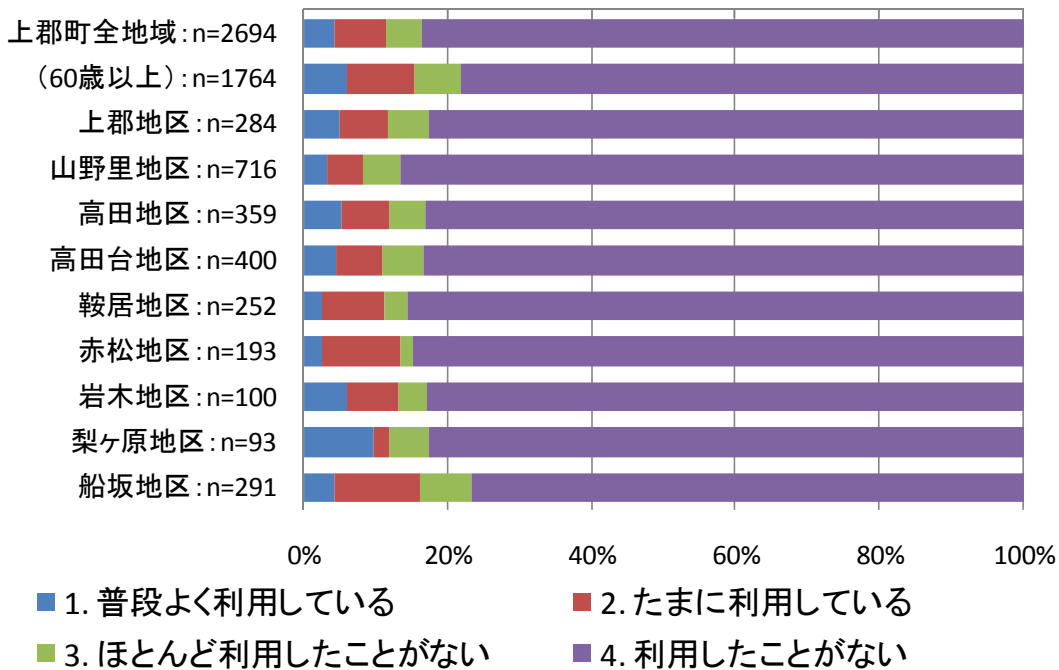
13. 「タクシー支援サービス」について（問7）

- ・町民全体での認知率は5割弱、高齢者については6割程度であり、高齢者により認知されている。地区では、高田、赤松、船坂でより認知されている。
- ・支援サービスの利用の頻度については、「普段よく利用している」と「たまに利用している」をあわせて1割程度であり、高齢者ほど、また、船坂において利用の頻度が若干高い。

【「タクシー支援サービス」の認知】（問7-1）



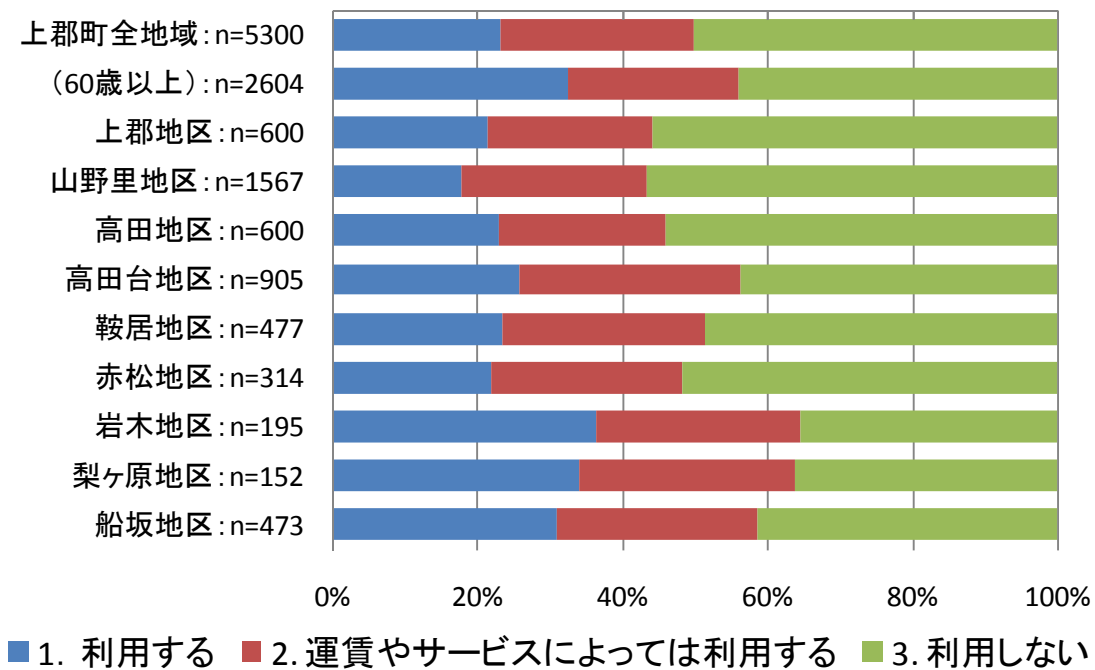
【「タクシー支援サービス」の利用頻度】（問7-2）



14. 現在外出でバスを利用していない方について（問8）

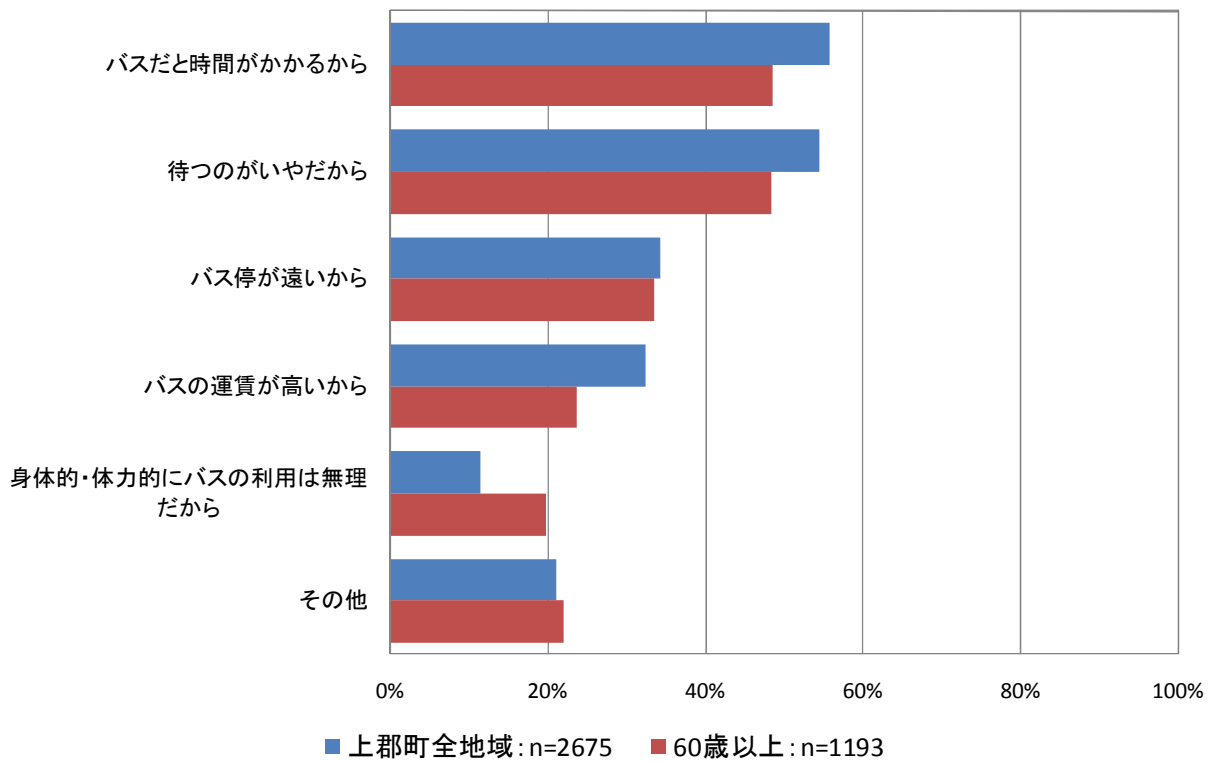
- ・町民全体では、「今後利用する」の回答は2割強、「運賃やサービスによっては利用する」もあわせると5割程度である。高齢者では町民全体と比べて1割弱程度利用意向をもつ割合が高い。地区では、岩木、梨ヶ原、船坂、高田台の順に利用意向をもつ割合が高い。
- ・今後もバスを利用しない理由としては、「バスだと時間がかかる」と「待つのがいや」がほぼ同じ割合であり、町民全体、高齢者ともに5割程度である。一方、「身体的・体力的にバスの利用は無理だから」という理由をあげた人が高齢者に2割ほど見られる。

【今後バスを利用するかどうか】（問8-1）

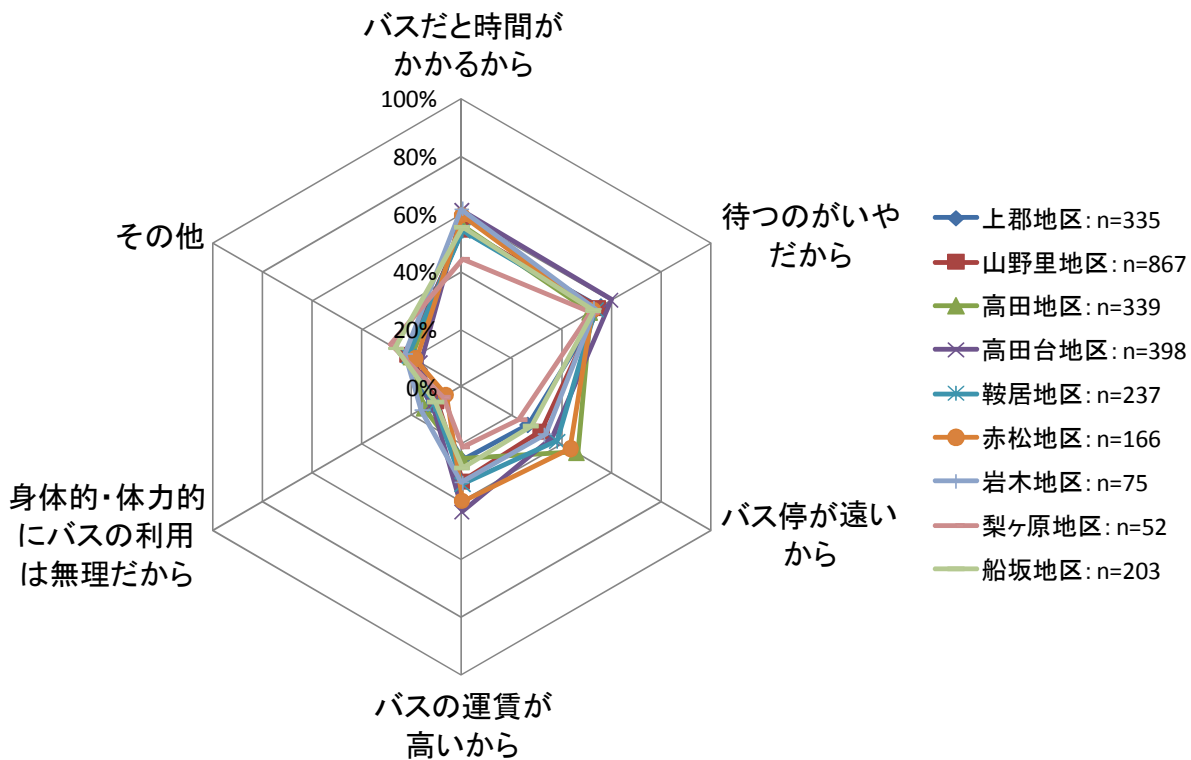


【今後も利用しない理由】（問8-2）

【上郡町全地域・60歳以上】



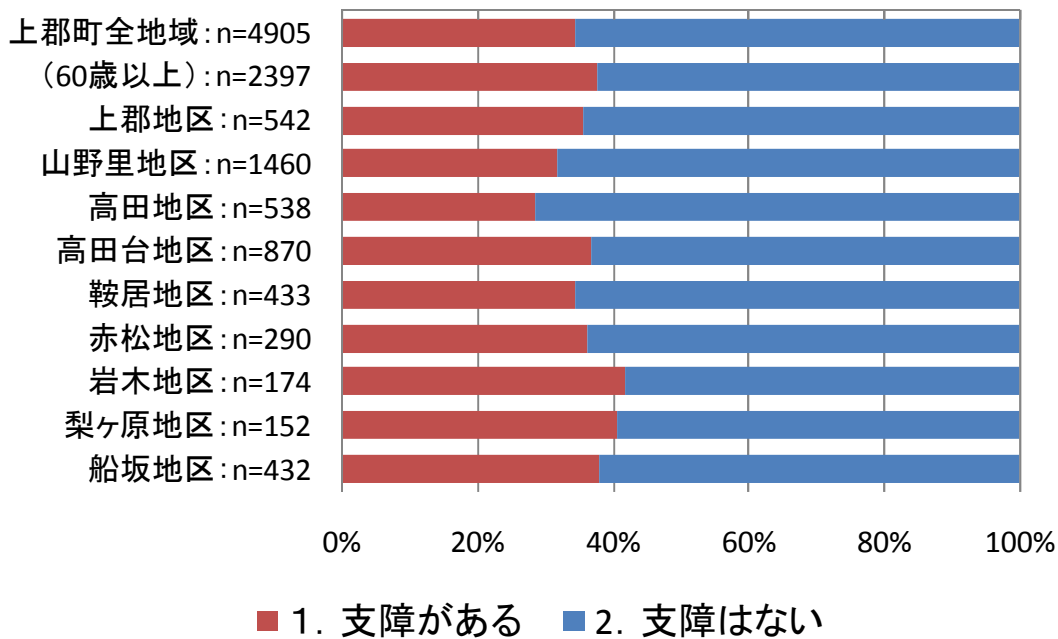
【地区別】



15. 改善策について（問9）

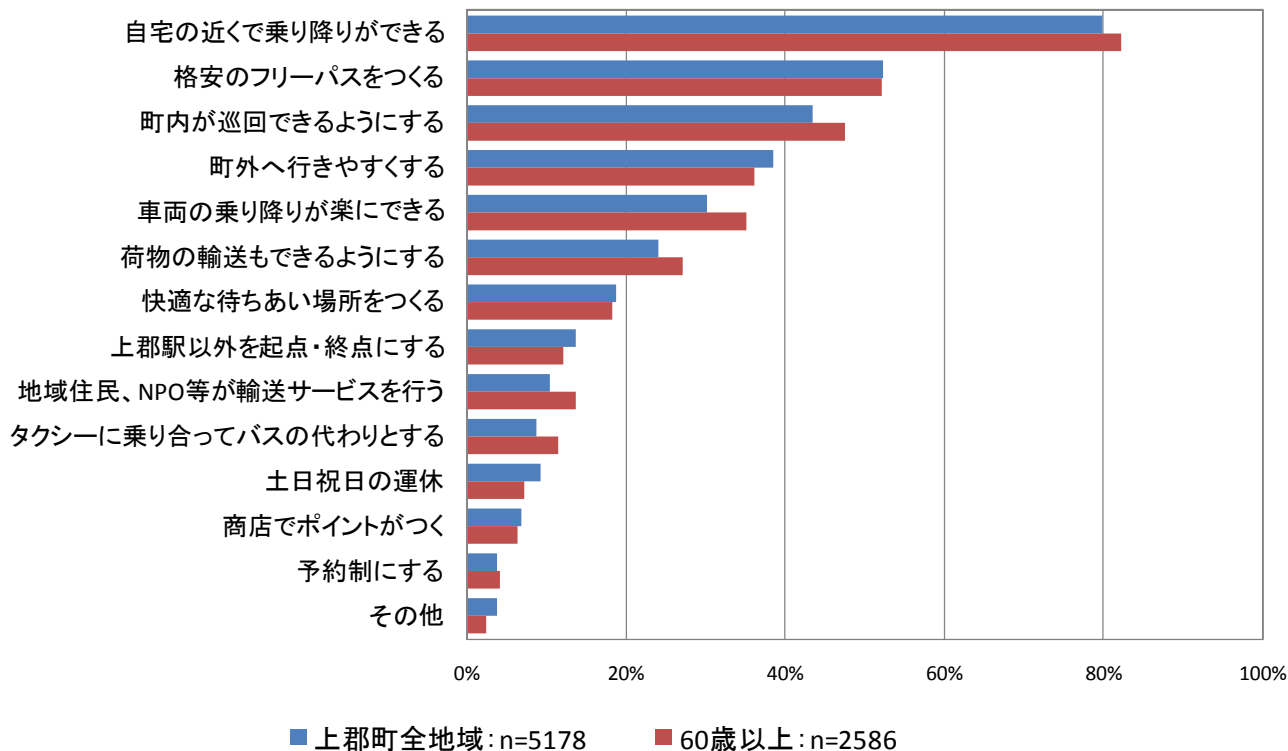
- ・現在の外出に関して支障を感じている人は町民全体で3割強となっている。また、高齢者についてもほぼ同様の割合であるが、若干高くなっている。地区間に大きな差は見られないが、岩木、梨ヶ原、船坂、高田台の順に高い。
- ・具体的な改善策としては、町民全体、高齢者に大きな差はなく、ともに「自宅の近くで乗降できる」が8割と最も高い。次いで、「格安のフリーパスをつくる」、「町内を巡回できるようにする」、「町外へ行きやすくする」の順に高く、それぞれ4～5割である。町民全体と比べて高齢者の回答が高い項目は、「車両の乗降が楽にできる」、「荷物の輸送もできるようにする」「地域住民、NPO等が輸送サービスを行う」であり、身体的負担の軽減やコミュニティが関与する取り組みに関する項目となっている。地区では、梨ヶ原において「荷物の輸送もできるようにする」の回答割合が高い。

【現在の外出に関する支障】（問9-2）

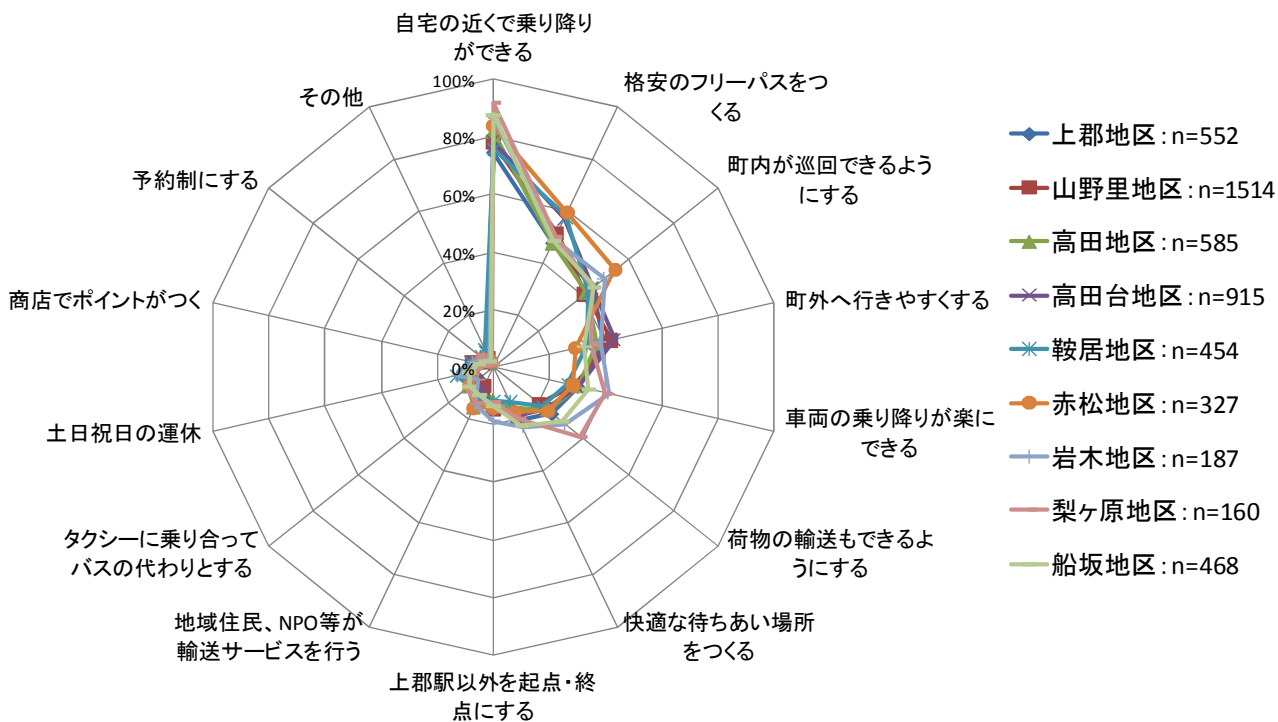


【改善策】（問9-1）

【上郡町全地域・60歳以上】



【地区別】



○まとめ

- ・多くの町民がマイカーや家族による送迎によって移動していることから、公共交通に対する大きな需要は見込めないものの、免許を持っていない、送迎を気軽に依頼できる人がいない、自分で自由に使える車をもっていないという町民も少なからず存在する。今後の高齢化を見据えると、このような人々は増える可能性もあることから、これらの人々を主たる対象とした公共交通サービスの導入を実験的に検討する値はあると考えられる。
- ・改善策に関する住民の回答を踏まえると、「自宅の近くで乗降できる」、「町内を巡回できるようにする」が可能となるようなサービスが望ましい。特に、通院のついでに買い物をする行動が多いことから、それを可能とするようなサービスの設計が有効と考えられる。また、高齢者の身体的な負担を軽減するような車両・サービスとすることが重要である。
- ・通院先においては赤穂市の病院の割合が高いとの実態があることに加え、町外へ行きやすくすることを望む声も少なくない。このため、JRとの接続および上郡町～赤穂市の路線バスとの連携についても検討することが重要である。
- ・バスを今後利用するとの回答は2～3割ほどあるものの、実際の利用はそれに満たないことが多いことから、多くの利用を見込むことはできない。利用者数の試算は後述の付録を参照されたいが、少なくとも赤穂市と同様のサービスは困難と考えなければならない。そこで、小型・中型車両を活用したデマンド交通が一つの有効な策となる。また、デマンド交通であれば需要に柔軟に対応できるため、自宅の近くで乗降できるサービスとすることも可能が拓かれる。また、可能であれば、荷物の輸送もできるようにすることが望ましい。

○付録 利用者数の概算

項目	備考
①高齢者数（2005）：4261人	平成17年度国勢調査より
②「今後利用する」：30%	アンケート調査より
③割り引き後の「今後利用する」：10～15%	土木学会バスサービスハンドブックより
④今後利用する人：①×③＝420人	
⑤買い物：週に2日，通院：月に1日 →（2/7）	アンケート調査より
⑥今後利用する人：④×⑤＝120人/日	
⑦のべ利用者数：⑥×2＝240人/日（2回/1人）	
⑧5路線とすると：⑦÷5＝48人/日/路線	
⑨1日5往復10便とすると：4.8人/便/日/路線	
⑩アンケート回収率：53%	
⑪路線ごとの利用者数：⑨×⑩＝3人/便/日/路線	

【参考】赤穂市のコミュニティバスとの簡易な比較

- ・赤穂市の高齢者数（2005）：11,507人（上郡町の約2.5倍）
- ・コミュニティバスは隔日運行であり，2日の需要を1日に集約している。

以上より，赤穂市の人口は上郡町と比べて2.5倍，上郡町が公共交通を毎日運行した場合，赤穂市のコミュニティバスは隔日運行であるため1日当たりの利用者数は2倍となる。仮に，路線の数を赤穂市と上郡町で同じとすると（上郡町は上記の⑧で設定した5路線，赤穂市のコミュニティバスは4路線ではあるが路線バスもあわせると5路線以上になるため，路線の数を赤穂市と上郡町で同じとするのはあくまで便宜上の仮定である），赤穂市では「上記の⑩×2.5×2＝15人/便/日/路線」の利用者数があることになる。この値は，コミュニティバスの現況，すなわち10（人/便/日/路線）強に近い値となる。